書×アート

中林梧竹生誕200年プロジェクト

小城市出身で明治三筆の1人、中林梧竹（なかばやしごちく）が令和9年に生誕200年を迎えます。
生誕200年に向け、全国各地で中林梧竹にまつわる展示が始まります。



今回は、徳島県徳島市の

徳島県立文学書道館をご紹介します。

（徳島県徳島市中前川町2丁目22−1）

2026年度書道コレクション展「中林梧竹」

期間 ～12月27日（日）

詳細はこちら▶

なぜ、徳島県に中林梧竹？

その背景には、海老塚的伝（えびつかてきでん）という人物の存在があります。梧竹と的伝は長年親交があり、梧竹は85歳の時、海老塚家に滞在して作品を制作しました。梧竹の没後も、的伝は作品を研究し、東京で展覧会を開催するなど、梧竹を世に広めた人物の一人です。



▲徳島県立文学書道館



昭和34年には、約300点の梧竹作品を徳島県に寄贈。これらは徳島県指定有形文化財となり、現在は徳島県立文学書道館に収蔵されています。同館では、毎年梧竹作品を紹介する展示を開催しており、今回展示では9点の作品を初公開されています。

◀展示作品

中林梧竹記念館
令和8年度第3期収蔵品展を開催します。

梧竹は、書の研鑽（けんさん）のために中国へ渡り、帰国後も全国を飛び回って書作を行いました。書に捧げた梧竹の生涯は、旅に始まり旅に終わったといっても過言ではありません。

今回は、旅先での梧竹の思いが垣間見える作品を集めました。日常から離れ、旅する気持ちでご鑑賞ください。



◀新天地（屏風　北海道）



◀瑠璃廠（るりしょう）（扇面・額　北京）

期間 12月5日（土）～令和9年2月28日（日）

※休館日
月曜日、12月29日（火）～1月3日（日）、
1月12日（火）、2月11日（木・祝）、
23日（火・祝）

場所 中林梧竹記念館（桜城館　2階）

入場料 200円（大学生以下無料）

問 文化課（桜城館　2階）　☎71・1132